

令和元年11月定例会 総務委員会（付託）

令和元年12月10日（火）

〔委員会の概要 政策創造部関係〕

岡田委員長

休憩前に引き続き、委員会を開きます。（14時06分）

これより、政策創造部関係の審査を行います。

政策創造部関係の付託議案については、さきの委員会において、説明を聴取したところではありますが、この際、理事者側から報告事項があれば、これを受けることにいたします。

【報告事項】

- 令和2年度に向けた施策の基本方針について（資料1）

志田政策創造部長

1点、御報告を申し上げます。

政策創造部及び南部・西部両総合県民局における令和2年度に向けた施策の基本方針について、御説明させていただきます。

お手元の資料1を御覧ください。

1ページ目、政策創造部でございますが、「全ての世代、あらゆる人々が活躍し、輝く徳島の実現」を掲げ、上段にあります「徳島のあるべき将来像」の実現を目指し、とくしま回帰、SDGs、Society5.0を3本柱として、地方創生の取組を更に加速してまいります。

まず左側、とくしま回帰でございますが、新しい人の流れづくりの加速として、若者・女性をターゲットにした移住施策に取り組みとともに、奨学金返還支援制度による若者の就業、定着を促進し、更に留学生をはじめとする多様な外国人材を呼び込み、魅力的な修学・就労機会を創出してまいります。

また、新たな視点での地域の活性化として、本県に思いを寄せてくださる徳島ファンの更なる創出・拡大を図るとともに、地域イノベーション、地域ビジネスの創出、集落機能維持に向けた官民連携の取組促進に取り組んでまいります。

次に右側、SDGsの推進を担う人づくり・地域づくりでは、SDGsの普及と展開の促進として、SDGsの普及を戦略的に推進し、県民総ぐるみの展開につなげるとともに、産学官連携による地域・産業人材の育成と県内定着の促進や産業界等のニーズに対応したリカレント教育の推進に取り組んでまいります。

また、下段のSociety5.0では、5G、IoT、AIなど革新技術を活用した地域課題の解決、スマート化をはじめ持続可能な自治体行政の実践、県民生活の利便性を高めるデジタル社会の基盤づくりといった、Society5.0社会を実現する革新技術の実装を具現化する取組にチャレンジしてまいりたいと考えております。

続きまして、2ページを御覧ください。

南部総合県民局では、4本柱の施策により「世界へ躍進！『四国の右下』の新たな挑

戦」を推進してまいります。

まず左側，強靱・安心を実現する地域づくりでございますが，災害対応実践力のある地域を創出するため，地域と一体となって四国の右下防災旬間に取り組むとともに，つながり，支え合う安全・安心な暮らしを実現するため，災害時における要配慮者支援体制の構築などに取り組むほか，大規模災害に備えるハード整備を加速させてまいります。

中央左側，世界を魅了する観光地域づくりでございますが，もうかる観光による持続可能な観光地域づくりに向けDMO，四国の右下観光局を核とし，インバウンド・広域観光を推進するとともにスポーツツーリズムによる誘客促進により，四国の右下の魅力を世界に発信してまいります。

中央右側，成長産業化による豊かな地域づくりでございますが，即戦力となる担い手を育成するため，きゅうりタウン構想や農の里づくりの本格展開，また地域の林業・漁業を担う人材育成を行うとともに，もうかる農林水産業の推進や超スマート社会の実現に取り組んでまいります。

右側，にぎわいと笑顔あふれる地域づくりでございますが，大学生と地域の連携・協働による地域づくりを加速させるとともに，地域ニーズに基づく人材誘致・育成による移住・定住の深化を図るため，商工・農林部局等との連携による移住支援の強化や将来の定住候補であるUターン人材の育成を充実してまいります。また，多様な主体が参画する研究会の成果を地域へ還元するなど，集積を生かした南部圏域ならではのサテライトオフィスの誘致を深化させてまいります。

3ページをお願いいたします。

西部総合県民局では，大きく三つの柱の下，にし阿波ならではの魅力を最大限に生かした地域づくりを推進してまいります。まず，「にし阿波ファン」の拡大でございますが，日本版DMO，そらの郷を核として地域が一体となり戦略的なインバウンド誘客を展開するとともに，外国人財を引き付ける受入環境づくりにより国内外を問わず，にし阿波ファンの拡大に取り組んでまいります。

次に，持続可能な地域経済の推進でございますが，SDGsに貢献する世界農業遺産として，にし阿波の傾斜地農耕システムを積極的に活用し，もうかる農業を推進するとともに，世界への発信や次世代へのSDGs教育に取り組んでまいります。また，国内外の事業者と地元企業との交流やビジネスマッチングを推進し，ビジネスフィールドとしての魅力アップにつなげるなど，地域経済の振興に取り組んでまいります。

最後に，安全・安心な暮らしの実現でございますが，県庁BCPの代替拠点であり，津波浸水のない西部総合県民局美馬庁舎を改修することにより，圏域の防災拠点機能を強化するとともに，にし阿波地域の喫緊の課題である糖尿病予防や受動喫煙防止などの健康づくりを推進してまいります。

こうした取組により，地域がにぎわい，潤い，そして実感する，にし阿波を実現してまいります。

3部局の来年度に向けての施策の基本方針については，以上でございますが，こうした方針に基づき現在，来年度の予算編成に取り組んでいるところであり，今後，県議会の御審議を通じまして，更に検討を加え施策の具体化につなげてまいりたいと考えております。

報告は以上でございます。

御審議のほど、どうぞよろしく願いいたします。

岡田委員長

以上で、報告は終わりました。

これより質疑に入ります。

質疑をどうぞ。

中山委員

今の部長の説明で、やっとなにし阿波ばかりでなく南部にもスポットが当たるのかと、我々、南の人間としてうれしく思っています。昨日も委員長が、ワールドマスターズゲームズ2021関西の開催について質問しているところですが、南部では、トライアスロン、カヌーが開催されます。これから外国人観光客が増えると予想され、また増やさないといけないと思うのですが、それに対しての準備というのは資料に何も書かれていないのですけれど、ワールドマスターズゲームズ2021関西は、来年からもずっと成功に向けて広報活動を展開していかないといけないと思うのです。

南部県民局として、どのように周知、また誘客促進に向けて取り組むのかを、分かる範囲で教えていただきたいと思います。

多田南部総合県民局調査幹

ただいま中山委員から、ワールドマスターズゲームズ2021関西に向けての南部圏域の取組について、御質問を頂きました。

ワールドマスターズゲームズ2021関西は、生涯スポーツの世界最高の大会であり、海外から多くの参加者が見込まれるスポーツツーリズムの要素も強いことから、地域経済の活性化や国際交流の促進等、大きな効果が期待されると考えております。

ワールドマスターズゲームズ2021関西の競技のうち、南部総合県民局管内におきましては、公式競技として、美波町でのトライアスロン、アクアスロン、那賀町でのカヌー（スラローム）、そしてオープン競技として、海陽町でのサーフィン、阿南市での軟式野球の開催が決定しているところでございます。

そのうち、美波町で開催するトライアスロンにつきましては、第20回ひわさうみがめトライアスロンにおいて、ワールドマスターズゲームズ2021関西を見据えてスイムコースを見直したほか、農林水産総合技術支援センター水産研究課の3階にございますミナマリンラボにおきまして、今年度、観覧席を解放するとともに、サテライトオフィスと連携し、選手の活躍を動画配信するライブビューイングを実施するなど、本番を意識した準備を進めているところでございます。

また、那賀町のカヌー（スラローム）につきましては、ドイツカヌー代表チームの東京オリンピック事前キャンプ地誘致が決定したことを機会に、海外に向けたPRを強化し、海外からの誘客拡大を図ることとしております。

また、海陽町のサーフィンにつきましては、プレ大会として今年、四国の右下サーフィングゲームズ2019 for ワールドマスターズゲームズ2021関西を開催するとともに、県内の

小中学生を対象とした四国の右下サーフィンスクールを実施することで、ワールドマスターズゲームズ2021関西に向けての地元の機運醸成を図っているところでございます。

中山委員

本当に、千載一遇のチャンスだと思います。また、南部には観光資源がたくさんあります。

トライアスロンは、従来7月の海の日前後に開催されていたと思うのですがけれども、今回、ワールドマスターズゲームズ2021関西の会期が5月中旬から末にかけてということをして昨日、答弁いただいたのですが、これは前倒しをするのでしょうか。

多田南部総合県民局政策調査幹

ただいま、ワールドマスターズゲームズ2021関西の開催時期についての御質問ですが、所管しているのは県民環境部でございますけれども、5月に開催するというふうに広報されていると聞いております。

中山委員

宿泊に関しまして、何日か滞在してくれると思うのですが、美波町にしても那賀町にしても宿泊施設が余りないので、その辺の受入体制というのは、所管が違いますが今後しっかりと。

あと、やはり言葉の問題もあると思います。県職員の方だけではなく、地域の人たちも外国人と接する機会は少ないのではないかと、おもてなしをしっかりと、資料に書いてあるように、徳島ファンをいかに増やすかということがチャンスをもどくようにものにするかにつながると、いろいろな観光スポットを紹介できるような仕組み作りを地域挙げて考えていく必要があると思いますが、どのような対応の取組を考えておられますか。

多田南部総合県民局政策調査幹

ただいま中山委員から、ワールドマスターズゲームズ2021関西についての外国人の対応等を含めた受入体制の充実について、どのように取り組んでいるかという御質問を頂きました。

南部圏域におきましては、各5市町と協議・協力いたしまして、例えば民間のボランティア団体に対する外国語の支援、四国の右下観光局を核としましたワールドマスターズ2021関西の機運醸成等に取り組んでおりまして、しっかりと圏域全体で担っていきたく思っておりますので、議員皆さん方の御支援をどうぞよろしくお願いいたします。

中山委員

南部には、桃源郷に負けないくらい美しいジオパークの景色があります。また、サーフィンのメッカであります高知県境にも近いし、波もきれいで、すごくいい波があると承知しております。世界にアピールできるような地域の景観があります。だから、本当に私、南部に住む人間にとって、にし阿波観光圏にお客さんを取られる、クルーズ船が来て

も脇町のうだつの町並み等に持って行かれるので、しっかりと観光資源をもっともっと発掘してアピールしていただいて、せっかく来たお客さんたちが、南部にも滞在できるような仕組み作りにしっかりと取り組んでいただきたいと要望して終わります。

岩佐委員

私からも、質問させていただけたらと思います。

まず、南部の振興ということで、私も南の議員の1人です。本当に、まだまだ開拓されていない、いろんな資源もたくさんあるかと思っていますので、しっかりとその活用を考えていただけたらと思います。

質問は東京本部の関係になるのですが、今回、政策創造部の今後の基本方針の中にも、先ほども言われておりましたけれども、徳島ファンの拡大ということが書かれています。その中で、この11月18日に、東京で“まるごと徳島”体感フェスというイベントが開催されました。私もできれば参加してみたいと思っていたのですが、文教厚生委員会の県内視察の関係で行くことができませんでした。

今まで、東京でいろんなイベント等があったのですが、それは農林水産部であったり商工労働観光部等がメインになって、東京本部がフォローに入るといったような形で行われているのが主であったと聞いておりますが、“まるごと徳島”体感フェスは、東京本部が自らの予算で行ったというふうに聞いております。

まずは、“まるごと徳島”体感フェスの成果、その内容や結果について教えていただけたらと思います。

飯田総合政策課長

ただいま御質問のございました、“まるごと徳島”体感フェス事業についてでございます。

こちらにつきましては、先月の11月18日に、東京の八芳園という、庭園を有するレストラン、バンケット会場ということで、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会PRイベントに使用されるなど、名の知れた所でございます。こちらの会場で、ターゲット、来場者といたしましては、関東首都圏の阿波おどりファンということで、東京本部におきましても阿波おどり講座等で高円寺や南越谷の方々と阿波おどりを通じて非常に関係作りを進めているところでございまして、そういった方々、更には徳島に興味を持っていただいている方、そして徳島にゆかりがある方を対象といたしまして、開催したところでございます。

内容につきましては、阿波おどり、人形浄瑠璃、藍染め体験といった徳島の観光や文化を体験いただけるコーナーを設ける。それに加え、徳島の食を体験したり、プロモーションできるような取組も併せてやっております。さらには、会場におきまして移住相談コーナーを設けまして、徳島への移住や関係作りに共感した方の相談に乗る、そういったところもこのイベントが対応して開催したところでございます。

こういった中で今、特に来年の東京2020オリンピック・パラリンピックを控え、非常に東京が注目されている状況の中で、徳島の観光や食、文化といったものをしっかりと発信して、東京本部それぞれ独自のネットワークなり人脈等もございまして、こういったも

のを活用しながら強力に発信し、首都圏から徳島への流れを作るということで、このイベントを開催したところでございます。

効果と言いますか、当日は約600人の方々が会場に御来場いただきまして、そういった徳島の観光なり文化を体感していただいて、非常に徳島の発信ができたものと考えております。

岩佐委員

当日、約600人の方に来ていただいたということですが、今までも、例えば農林水産部や商工労働観光部がメインでやっているいろんなイベントがあります。ターンテーブルもそうですけれども、そういう他部局が主になっている部分での開催と東京本部が主になって独自の予算でやるというところの違いと言うか、東京本部が主になってやっているメリット、一番大きな利点というのは、どういうものがあるのでしょうか。

飯田総合政策課長

今回、委員お話のとおり、東京本部の主催という形でイベントを開催させていただいたところでございます。これまでは各部局におきまして、東京で徳島の魅力発信といった取組を多々やっている中で、東京本部としてもその開催に当たっては、様々な効果的なイベントをどうやるか、あるいは人をどうやって来ていただく等といった面で、連携しながら開催してきたところでございます。

今回、東京本部の主催イベントということで、東京本部につきましては、首都圏や関東圏におきまして、東京と徳島のいわゆる人脈、様々な関係といったものを豊富に持っているところでございますので、今回はそういった人脈を使ってイベントをして、更にその人脈を膨らませて、これからの東京2020オリンピック・パラリンピック、その先の徳島への誘客へしっかりとつなげていくということで効果があったと考えてございます。

岩佐委員

東京本部がこれまで築き上げてきた人脈や関係を強みとして、それを使っての開催ということであろうかと思えます。ただ、部局間同士の連携もあって、自分のところが持っている人脈を当然抱えることはないと思うのですけれども、今後の話で、例えば農林水産部主体の農産物フェア、商工労働観光部であったら工業製品、にぎわい創出等といった主たる目的があるのですけれども、そこへは当然、東京本部は今までもサポートとして入っているわけですから、人脈であったりいろんなネットワークもサポートで入ると思えます。今後も東京本部として、こういったイベントは特に政策創造部ですから、徳島ファンや移住につなげるような内容になってくるかと思うのですが、同じように農林水産部や商工労働観光部主催、そして東京本部主催で同じような内容になってしまえば、その色がなくなってしまう。

逆に言えば、よく似たイベントが何回かあるというのではなく、ターゲットを絞った戦略も必要だと思うのですが、この東京のイベントも1回きりで終わりというのでは全く意味がないと思えます。来年度以降も東京本部として、こういった徳島ファンを増やすには、イベントをどうしていこうと思っているのか。また、他部局との関連性、色の違いと

というのは、どういうふうを考えているのかお聞かせいただけたらと思います。

飯田総合政策課長

今回のイベントを踏まえての今後の展開について、御質問を頂いたところでございます。

今回、先ほど申し上げましたように、東京在住の方なども含めまして約600人という多数の方に御参加いただいたところでございます。今後につきましては、こういった参加者の方々を東京本部のほうで名簿にまとめて整理いたしまして、新たな関係作りに向けた人材発掘やネットワークの構築、また東京本部におきましても、メールマガジン等いろいろなところで情報提供を行っておりますので、そういった場での活用等にも使いながら、しっかりとそういった方々との関係作りに取り組んでいきたいと考えております。また、こういった人脈等を通じまして、県産食材のマッチング、できましたら企業誘致、更には関係人口作り、こういったものに広く取り組んでいきたいと考えてございます。

そういった中で、当然ながら各部局におきましても、それぞれの特色事業を踏まえたイベント等を東京で開催されることが多々あるかと思っておりますので、そういったときにこういった人脈を相互に生かせるような形で、しっかりと連携を図っていきたいと考えてございます。

今後につきましては、今回のイベント成果を十分に踏まえ、特に今回のイベントの中でも阿波おどりは、徳島県の非常に強いと言いますか、全国でも知名度のあるコンテンツでございまして、かなり首都圏でも地域それぞれの、例えば商店街のイベント等で浸透しているところでございますので、そういった阿波おどりなども活用するような形で、首都圏での徳島ファンの獲得等にしっかりとつなげていけるように今回のイベントを踏まえて、更に来年に向けた事業について考えていきたいと思っております。

岩佐委員

阿波おどりの話が出たので、これも以前から言っている話ですけれども、せっかく東京本部があって他部局とも連携しながら、いろいろな他部局主催のイベントで阿波おどりを使っていくと思うのですけれども、高円寺の阿波おどりがあったりして向こうが本場のようなイメージが付きつつあるような気がして仕方がないのです。阿波おどりは徳島のものである、また徳島のいろいろな物産や観光ということも、東京本部がしっかりと中心になって連携をして、東京また関東における徳島ファンの拡大にしっかりとつなげていただいて、そこから移住して徳島に行ってみようと思ってくれる人が増えるような取組を期待したいと思います。

先ほどの話ですけれども、県南もしっかりとPRしていただいて、徳島への移住、そして地元徳島が活性化するように、そんなつながりを東京本部に期待して終わります。

岡田委員長

今回、令和2年度に向けた政策創造部の施策の基本方針の中に、外国人をはじめあらゆる人が活躍「徳島ならではのダイバーシティ実現」と書かれているのですけれども、10月中旬に、岩丸委員、岩佐委員、立川委員など総勢7名で、会派で台湾へ視察に行き、高尾

にあります高苑科技大学を訪問させていただきました。資料にも書かれていますが、にし阿波ファンの拡大ということで、外国人誘客に向けた取組が、にし阿波は積極的に行われています。そのキーパーソンとなっているのが、高苑科技大学からインターンシップ生として、にし阿波に来られた学生たちです。日本語学部の学生や日本語が上手な学生たちは、大学4年になったら1年間、世界中に活躍の場所を求めてインターンシップ生として出て行かれるということですが、にし阿波にも来られているということで、その現場を確認するために訪問させていただきました。

資料の「とくしま回帰」の中にも、外国人材の修学環境の整備等を書かれていますけれども、当然、留学生として徳島に来てくださっている学生は対象でいいと思うのですけれども、海外にいながら日本に関心を持って是非そこで働いてみたいと、チャレンジ精神を持って徳島を選んでくれている人たちに対しても、いろんな支援、サポートをしていくことで今後のつながりを作っていくということも是非、進めていただければと思います。にし阿波のほうで、かなりの成功事例も出ていますし、台湾の学生のインターンシップ生と、仕事をしている中でコミュニケーションもしっかり取れているというような情報もあります。

是非、そのあたりの拡大と言いますか、働きやすい徳島を選んでもらえる、日本の中でも徳島に行きたいと思ってもらえるような環境づくりを強化していただきたいと思うのですけれども、いかがでしょうか。

田上地方創生推進課長

ただいま委員長から、海外の学生をインターンシップで受け入れていることに関して、今後の環境整備をというお話を頂戴いたしました。

私どものほうでも、台湾の皆様と比較的交流が盛んに行われていると考えておりました。今年度、私も二度ほど交流し、台湾の地方議員の方々や大学の先生であったかと記憶しておりますけれどもお越しいたしまして、徳島の地方創生の取組を知りたいということで御説明させていただいたり、意見交換をしたりという機会を持ったところでございます。

現在、我が国全体で今後の日本の活力を考えていく上での外国人の皆様の御活躍は非常に重要な視点になってきているところでございまして、委員長からもお話がございましたように、9月議会でお示した「新たな総合戦略」骨子案にも、外国人をはじめ誰もが活躍できるダイバーシティの実現と。これは、正に外国人の方々がお活躍いただくための環境整備を全庁各部局で様々な知恵を出してしっかりやっつけようという柱立てをして、本部長である知事からも各部局に指示をした上で、具体的には現在、各部局の来年度当初予算案で検討を進めているところでございます。

インターンシップの活用となりますと、例えば商工労働観光部や、当然我が部もそうですけれども、大学や民間企業、様々な関係機関の皆様と連携して進めていく必要もあろうかと考えております。繰り返しになりますが、今後の徳島県の人口減少の克服といった視点、また地域の様々な課題解決、活力の維持、そういった視点も含めまして今後こういった形で進めることができるのか、しっかり考えてまいりたいと考えております。

和歌山県立総合大学校本部副本部長

外国人材の活用という点で、留学生の県内定着の事業について少し御説明をさせていただきます。

今年度、当初予算で留学生県内定着促進事業をお認めいただきまして、県内の産業人材が不足する中、県内大学への留学生を増加させ、その留学生の方に県内就業につなげるような取組を開始しております。7月には、県内大学で最も留学生が多い徳島大学に、留学生共同サポートセンターとくしまを設置いたしまして、県内留学生の総合相談窓口となつていただいております。

具体的に、県内大学への留学生を増加させる取組といたしましては、関西圏の日本語学校に在籍いたします学生を対象とした県内大学オープンキャンパスバスツアー、独立行政法人日本学生支援機構が実施しております外国人学生のための進学説明会における県内大学の情報提供、徳島県住宅供給公社と連携いたしました居住確保支援を実施しております。

県内定着につなげる取組といたしましては、今年度順次、県内大学留学生を対象とした就職セミナー、また県内企業との交流会や県内企業を巡るバスツアーも企画しております。

来年度も引き続き、留学生共同サポートセンターとくしまの機能強化を図るとともに、県内の企業情報、またインターンシップ情報を商工労働観光部とともに連携しながら積極的に発信してまいりまして、1人でも多くの留学生に、卒業後の進路として県内就業を選んでいただけるような取組を進めたいと考えております。

岡田委員長

当然、徳島を選んで留学してくださっている皆さんに徳島で働く機会を提供していただきたいとともに、是非、徳島で働ける環境整備という部分もしていただきたいと思っております。

もう一つ、今回、大学2か所を訪問させてもらいまして、台北にある台湾科技大学、どちらも科学技術大学ですけれど、台湾科技大学に至っては徳島大学と連携しています。木造建築のデモンストレーションで建物を建てたりというのがあるのですが、実際に台湾では木造建築が今建てられない、禁止されているということで、木造建築を学んでもフィールドがないので、フィールドを求めて海外に出て行っているという話で、徳島大学が連携しているので徳島に来ているということです。その話を聞いた先生は、1月末に学生20人ぐらいを連れて徳島に来たいという話もされておりました。

皆さん、常にいろんな切り口で交流をされているのですが、学生ですので、将来につなげるためのもう一つ、次なるステップというつなぎを付けてくださることによって、進路であったり就職であったり、更に大学進学であったりというところにつながっていくかと思っております。せっかくできた徳島との縁なので、留学生であろうがインターンシップ生であろうが、外国人の学生たちという大きな枠組みで捉えてもらって、いろんな方たちにチャンスを与えてもらえるような機会を創出していただいて、徳島に関心がある、また日本で働きたいという方に関してのフォローアップができるような取組をしてもらい、目標に掲げている「徳島ならではのダイバーシティ実現」に向けて、是非、住みやすい環

境づくりを整えてもらいたいと思いますが、いかがですか。

梅田地方創生局長

岡田委員長から、外国人材の活用ということで御意見を頂いております。

我々も、先ほど課長が答弁いたしましたように、台湾との一定の御縁もございます。議会の皆様のいろいろな御意見を頂きながら、委員長がおっしゃったようなつながりを御紹介いただきながら積極的に取り組んでいきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

岡田委員長

是非、お願いします。

ほかに、質疑はございませんか。

（「なし」と言う者あり）

それでは、これをもって質疑を終わります。

これより、採決に入ります。

お諮りいたします。

政策創造部関係の付託議案は、これを原案のとおり可決すべきものと決定することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

御異議なしと認めます。

よって、政策創造部関係の付託議案は、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

【議案の審査結果】

原案のとおり可決すべきもの（簡易採決）

議案第1号

以上で、政策創造部関係の審査を終わります。

次に、お諮りいたします。

委員長報告の文案は、いかがいたしましょうか。

（「正副委員長一任」と言う者あり）

それでは、そのようにいたします。

次に、当委員会の閉会中継続調査事件について、お諮りいたします。

お手元に御配付の議事次第に記載の事件については、閉会中に調査することとし、その旨議長に申し出たいと思いますが、これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と言う者あり）

御異議なしと認めます。

よって、さよう決定いたしました。

次に、当委員会の後期の県内視察についてでございますが、来年1月24日に県南部において、警察署の管内概況や移住取組に関する調査のため関係施設を視察したいと考えてお

りますが、いかがでしょうか。

（「異議なし」と言う者あり）

それでは、さよう決定いたします。

これをもって、総務委員会を閉会いたします。（14時45分）